

# 立命電友会

## 「思い出と技術立国の

## リーダーへの期待」

サンライテック㈱取締役社長

山岡 嘉男

(昭和三十六年卒)



一、投稿のきっかけ  
昨年末、製品である照明器具の技術課題に困窮してご指導頂ける学識経験者を探していた時、相談に訪問した京都中小センター様やセンターの顧問をされていた京都工芸繊維大学の先生からご紹介して頂いたのが浦山先生でした。今も照明を研究されているのは浦山先生しか居られないとの話。早速電話連絡した所、運良く大学に出

勤して居られその旨告げると「会社へ急ぐ行ってやる」と即座に承諾の回答を頂いた時は正直そのお元気さ、行動力に驚きました。今も鮮明に記憶しておりますが、暮れも押し迫った十二月二十七日に本社頂き関連の情報や講義を受け製品改良への問題点整理や何と云っても改善への意欲を奮い立たせて下さり現在の製品供給につながっています。本年に入ってから引き続き数度ご訪問したりする内に、三十六年卒同窓会を昨年十一月に湯河原温泉で開催した時の話題となり次は二年後名古屋地域ですよと話が進む中で、急に浦山先生から「君、電友会の原稿たのむわ」と依頼されたのが「投稿のきっかけ」です。

### 二、学生時代の思い出

四回生の卒論提出も終了した頃、高校時代から考えていた自転車旅行を計画実行しました。その当時、「忘れられた土地」という今でいう社会的文化的格差が問題化し始めて居り、その現状を自分等の目で見て調査したいと同じ電気科の島貫氏、福井氏、坂井氏(故人)の四人で奄美、喜界島まで三週間程旅行しました。この時、末川総長から毎日新聞社、ユースホステル等への紹介状を戴き、旅行途中ずい分支援を受けた事は一生の貴重な思い出、経験となりました。又衣笠理工E.S.Sには今も大変お世話になっており、後輩からの行事の案内、名簿の整理、近況の報告等があります。学生時代の英語弁論会や東京三大学との交流、コンパ、ドラマ等今でも昨日のように憶えています。ウイリアムズ先生が「大学で学ぶ目的は、真理の探求、人格の形成の他に生活して行くための職業能力を身に付ける事です」と云われた言葉も昨日のように良く憶えています。小堀先生の卒論では、トコトン理解できるまでの勉強とプロセスを追求された事がその後仕事で論理的に思考する基本として大いに役立っています。時々そして急に浮かび上がって来るのが校歌です。この美しい、力強い校歌は好きで、何か困った時などふと浮かんで来たりして勇気づけてくれます。

### 三、現在

こゝ十年程、盛んに産官学の連携が叫ばれ小生も色んな形で各大学や機関と関係を持つようになりました。母校では浦山先生以外には、安定器用インバータ回路の開発研究のご指導を川畑隆夫先生、川畑良尚先生にお願いし学生さんも含め共同研究を実施しました。他大学にも種々ご指導依頼していますが、各大学の特長が良く判らない。最近でこそ各大学の研究成果発表会等が継続的に行われ少しは各大学の特長が理解できるようになっていますが、まだ十分ではないと思います。学生達の特長も余り感じません。どこの大学も皆んな同じ服装で同じ顔付きでと感ずるのは小生だけでしょか？ 小松先生の研究室を見学させて頂いた時、研究室に阪神タイガースの応援ピラが貼ってありましたが、同じタイガースファンとして嬉しくなり、何かワイワイガヤワイで成果を目ざす立命らしさを感じたりしました。今後も照明は立命、インバータは立命、...は立命で頑張っって欲しいと思っっています。

### 四、これから

振り返って見ると、これからの技術発展を考えるとやはり数学と

### 物理そして外国語が基本かなあと

思う。これからは絶えず自分なりの課題は何かをテーマに活動したいと思っっています。自宅近くにびわこ・くさつキャンパスがあり、今も月に一、二回ローム記念館で開催されるセミナーに参加させてもらっています。図書館も季節、時間によっては社会人でもゆっくり読書可能です。立命館大学の持つ財産、知的財産は勿論、卒業生で構成するネットワークも巨大な物です。このグローバル時代には、益々これらの財産やネットワーク化と共に現役、OB、関係者、広くは市民まで参画したパワーとして人類平和のために貢献し得る大学として発展して欲しいと願っっております。

### 五、あとがき

資源の乏しい日本にとって将来も進む道は技術立国と云われていますが、若人達の工学離れは年々少子化と併せて増大の方向にあり一大学の努力範囲を越えた要因もありませんが、益々魅力ある工学部として充実発展を心より期待する所です。OBとして、立命電友会全体として協力すべき事があればぜひ協力したいものです。最後になりましたが立命館大学及び立命電友会の益々の発展を祈念しております。

# 新任のご挨拶

電子情報デザイン学科

教授 道関 隆国

本年四月に電子情報デザイン学科に着任しました。着任前の二日間には渡るオリエンテーションから新しい大学生活がスタートしました。総長を始めとする皆様から、大学教員としての心得を御教示頂くなど、立命館大学の新人教員に対する熱い思いを耳にして、身の引き締まる思いでおります。

私は福井県出身で大学院修了以来、神奈川県厚木市にあるNNTTの研究所に在籍しておりました。デザイン学科には、福井県やNNTTにゆかりのある先生方が多く、たいへん心強く感じております。四月から単身赴任で、十数年来の一人ぐらしを始めましたが、週日の大学生活、週末の厚木での家族との生活、新幹線通学等、非常に新鮮に感じています。

専門はシリコン系を中心とした集積回路(LSI)設計です。特に、消費電力の極端に小さいLSIをデバイス・回路面から研究してきました。今後の研究目標は、極低電力LSIを用いた電池のいない端末やシステムを作ることです。エネルギー源としては、我々

の身の周りにおける光・熱・運動エネルギーといった環境負荷の小さい自然エネルギーです。産学連携を積極的に進め、大学発の技術を開発していきたいと思っております。

を進め、その成果を世界に発信していきたいと思っております。最後になりましたが、今後とも、よろしく願います。

電気電子工学科

講師 西門 秀人

このたび二〇〇六年四月より、

任期制講師として電気電子工学科に着任いたしました。私は一九九一年に立命館大学理工学部電気工学科に入学しました。その翌年、一九九二年に「電気工学科」は

「電気電子工学科」へと名前を変えたため、私の学年が「電気工学科」最後の学年ということになります。それから、修士課程、博士課程、そして学位取得後はポスドク研究員として、十三年間本学に在籍し、その後、福井大学に研究員として在籍していましたが、本年から再び、母校でお世話になることとなりました。

私は博士課程以降、当時、電気電子工学科、現在は電子情報デザイン学科の山内寛紀教授の研究室におきまして、コンピュータ並列処理システムの高位合成(動作合成)に関する研究に従事してきました。LSIなど半導体集積回路は世に出たときから、その集積度は年々、指数関数的に増加してい

ます。その技術発展にともなって、私たちの身の周りにはコンピュータ、携帯電話、デジタル家電など便利なものが現れ、手軽に使えるようになり、今では生活に欠かすことのできないものになっていきます。しかし、LSIの集積度が飛躍的に向上したことにより、その設計規模も増大し、設計生産性が追いつかないという状況が問題になっていきます。この設計生産性の危機を打開する一つのアプローチとして高位合成があります。高位合成とは、ある処理を実行するハードウェアを設計する際に、対象となる処理のアルゴリズムを記述した「動作記述」から、自動的にハードウェアを合成する処理のことを意味します。現在のLSI設計では、レジスタやクロックによる同期などハードウェア特有の概念を意識したRTL(レジスタ・トランスファ・レベル)記述から回路を合成していくことが主流となつていきます。一方、動作記述から合成できれば、RTLに比べて記述量は大幅に減少し、設計ミスも少なくなり、設計生産性の向上が期待できます。高位合成は、まだ実用に使えるレベルには達していないのが現状ですが、今後、重要な役割を果たすことは間違いありません。私自身は研究を通じて、

デジタル回路設計手法や汎用プロセッサ、DSP(デジタル・シグナル・プロセッサ)のアーキテクチャといったハードウェアに関することから、動作記述(プログラム)の解析のためのコンパイラ技術やプログラミング言語理論、並列処理プログラミングなどソフトウェアに関することまで、幅広い知識を得ることができました。今後は研究だけでなく、教学にもこれまで得た知識を活かしていきたいと考えております。



四月に着任してから初めて本格的な教学に携わることになり、改めてその大変さと責任感を感じていますが、立命館大学のさらなる発展に微力ながら貢献できるよう努めていく所存です。今後ともどうぞよろしく願います。

「学生時代の回顧」

宮川 隼

(博士後期課程)

私が立命館大学の電気電子工学科に入学したのは二〇〇〇年四月でした。そして、本年の四月から立命館大学博士後期課程へと進学することとなりました。

この度、幸運にも現在に達するまでの経緯を回顧する機会を与えて頂き、自分自身の良い節目であり、今後の自分を考える上で良い事と考え、稚拙ながらお話させていただきます。と思います。

まず、立命館大学に入学して現在に至るまでの六年間を振り返りすぐに思いついた言葉は「環境」です。良き人々に囲まれとてもよい環境の中で過ごせた六年間でした。

私は自分で物を作ってみたり、電化製品の中の構造がどうなっているか、それが持つ動作を行うのかと不思議でしようがなく分解してみたりと幼少から興味がありました。理解できないことが逆に興味をそられるということなのでしょう。か。いつからか私は電気系の道に進み、実際に物を創ったり、開発

してみたいと思うようになってきました。そういつたことから自然と電気電子工学科を専攻しました。立命館大学の電気電子工学科に入学し、これから始まる大学生活への期待と新しい環境への不安を抱え大学生になった私の生活が始まりました。

学部時代には専門的な学問を身に付けたということもさることながら、様々な人との付き合いにより、今の私を形成する人間的に成長した時期だったと思います。どちらかといえば学問よりも友人などと共に遊ぶことに夢中でした。

それまでは内気な面が多かったのですが、学部時代の四年間で明るく社交的になれた気がします。今の自分があるのはこの四年間に因るところが大きいと思います。時には友人とお互いが本音をぶつけ合い喧嘩をしたこともありましたが、そして、どんなことでも語り合える、かけがえのない友人となりました。その友人は自分の好きなことに夢中になって取り組むという

姿勢が強く印象に残っています。私はそういった姿勢を尊敬し、友人の姿を見て多大な影響を受けました。

学部の四回生となり、研究室に配属され、私の学問への意識が大幅に変わりました。今までは自発的とはいえ勉強をしてテストで良い点を取るといった自分の中では単調に思っていたことが、研究室内では自分でやりたいテーマを決めそれについて自分で様々な視点から取り組み、つまずいた時には先生、先輩方にご指導いただき、また時には友人と共に悩み、試行錯誤を重ね目標を目指すということに私は学問の深さとおもしろさを知りました。そして、私はいつの間にかそれに夢中になっていました。私が博士前期課程へと進学を決意させるのに十分でした。また、この頃から少しずつ博士後期課程への興味も沸いてきました。

博士前期課程に進学しより専門的な研究を行いました。また、私が所属させていたいたいた研究室では企業との共同研究、学会へ参加しての研究成果の報告を盛んに行っており、私も様々な場所へ行かせていただき、様々な人との交流をさせていただきました。まだ、学生である私には本当の社会をよく

分かっているというところを知る貴重な経験でした。

企業との共同研究では、大学で日頃行っている研究とは違い実用面を最優先に重視し、また、研究のペースが非常に早いといったことに驚かされました。

大学で腰を据えてじっくりと研究させていただけるとのありがたさを感じました。

立命館大学に入学して現在に至るまでの六年間の中で一番の大きな出来事は国際学会への参加でした。たいした下調べもせずに見知らぬ国へ単身で赴き、特に英語が得意でもなかった私はとんでもないミスをしてしまいました。ホテルを予約していたのですが、宿泊日を間違えて予約していたのでした。ホテルの方が親切に対応してくださり危うく野宿は免れましたが、今でもその当時の事を思い出すと冷や汗が出ます。その後、発表を無事に終え、あまり行動力のなかった私ですが、ガイドブックを片手に観光にも出かけました。こういった経験を経て私は物事を様々な視点からとらえ柔軟に取り組むことを覚えました。そして、私が行っている研究への興味、おもしろさが更に増し、博士後期課程への進学を心から決意しました。

一つ一つ経験を積むと私の中で描いている夢へと向かう自分が少しずつ軌道修正されていく気がします。これからも様々な経験を積み、より深く学問を習得したいと思えますし、それ以上に人間的に向上していけるようになりたいと思います。

今は、まだ将来の自分がどうなるか漠然としか想像がつかませんが、そこに向かっていく自分、また、向かっている間にどのような経験ができるのか、すごく楽しみです。

こういった環境を作っていただけける周りの人達にとっても感謝し、この環境に自分の身を置くことをとても幸せに感じています。また、他の人にとって良い環境を作れる人々の一員になりたいと思います。

最後にこのような表現の機会を頂きましてありがとうございます。また、学びの機会を与えてくださった北澤敏秀先生をはじめ御指導、御支援いただいた諸先生方、先輩、友人、後輩、家族の皆様には今後の自分の活躍をもって感謝の意を表していきたいと思います。

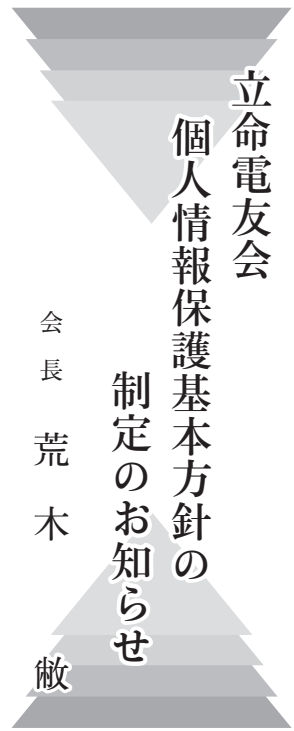
一つ一つ経験を積むと私の中で描いている夢へと向かう自分が少しずつ軌道修正されていく気がします。これからも様々な経験を積み、より深く学問を習得したいと思えますし、それ以上に人間的に向上していけるようになりたいと思います。

# 立命電友会

## 個人情報保護基本方針の

### 制定のお知らせ

会長 荒木 徹



ここ数年前より、個人、官庁、企業、各種団体などによる個人情報保護の軽率な取扱いに係わる事件・事故が新聞・テレビ等メディアに多く取上げられ、社会的関心時となっています。こうした事柄は個人の権利の侵害や財産の損失に直接的に繋がるため、個人情報の取扱いには最大限の誠意と注意を払わなければならないことを示していると言えます。

このような社会的背景を受けて、内閣府は個人の権利と利益を保護するために、個人情報を取扱う事業者に対して個人情報保護の取扱い方法を定めた法律「個人情報保護に関する法律」(以下、「個人情報保護法」と称す)を二段階に分けて施行しました。第一段階として、「総則」(第一章)、「国及び地方公共団体の責務」(第二章)、「個

人情報の保護に関する施策等」(第三章)を、二〇〇三年五月三十日に施行し、第二段階として、「個人情報取扱事業者の責務等」(第四章)、「雑則」(第五章)、「罰則」(第六章)を、二〇〇五年四月一日に施行されました。

こうした国の法律施行を受けて立命電友会は、本会が個人情報保護法に記された「個人情報取扱事業者」に該当すると認識し、事業幹事役員に対し、直ちに個人情報保護法に関する情報収集、他の同窓会へのヒアリング、理工学部同窓会連絡協議会役員会での協議および本会執行部内での検討等を依頼しました。そして、二〇〇六年三月十八日(土)開催の(臨時)役員会にて、事業幹事より個人情報保護法および関連機関の対応状況についてご説明していただき、

「個人情報保護に関わる本会の対応について」の検討を行いました。その結果、本会が有する会員の個人情報の保護と適切な取扱いをはかるため、「立命電友会個人情報保護基本方針」(以下、「基本方針」と称す)、「立命電友会個人情報保護規則」(以下、「規則」と称す)および「細則(案)」を順次作成し、施行して行くことを決議しました。そして、「基本方針」と「規則」を策定するためのワーキンググループ(WG)の設置が合わせて承認されました。

その後、二回のWG会合(四月二十二日、五月十三日午前)の議を経て、「基本方針(WG案)」が二〇〇六年五月十三日(土)開催の定例役員会において、承認されました(部分的な修正条件付き)。合わせて、個人情報の適切な管理を行うための「個人情報保護運営委員会」および直接的に個人情報の取扱いを行う「個人情報取扱責任者」を役員会の下に設置することが承認され、その後事務局より提案された委員・責任者の候補者について承認されました。そして、「規則」に関しては、三

回目のWG会合(五月二十七日)を経てWG案が策定され、二〇〇六年十一月四日(土)開催の(臨時)役員会においてはかられる予定となりました。

また、「細則(案)」は、実務的な個人情報の取扱いを管理する「個人情報保護運営委員会」にて、以後作成することになりました。

以上の通り、昨年度完全施行されました個人情報保護法に対する本会の対応と具体的な取り組みにつきましてご説明を申し上げますとともに、策定された基本方針(別ページ)を皆様方にご開示・ご報告いたします。昨今の世情を十分にご勘案の上、これら一連の作業とその内容に対し充分なご理解とご認識を賜りますようお願い申し上げます。

尚、言うには及びないことではありますが、今般の個人情報保護法の施行により、本会の活動目的である「会員相互の親睦と社会的ネットワークの構築」がいささかも脅かされることがあるとは思いません。今回、本会が施行しようとする「基本方針」、「規則」および「細則(案)」

は、単に法の遵守と本会活動の両立を目指すための作業であり、ますことを十分にご理解賜りますようお願い申し上げます。現在、「規則」ならびに「細則(案)」施行に向けた過渡期にありますが、会員皆様方が催しにられます年次同窓会開催に関わる本会所有の個人情報および名簿の取扱いに関しては適時・適切・適正に対応いたしますので、随時事務局までお問い合わせいただけますようお願い申し上げます。

以上



は、単に法の遵守と本会活動の両立を目指すための作業であり、ますことを十分にご理解賜りますようお願い申し上げます。現在、「規則」ならびに「細則(案)」施行に向けた過渡期にありますが、会員皆様方が催しにられます年次同窓会開催に関わる本会所有の個人情報および名簿の取扱いに関しては適時・適切・適正に対応いたしますので、随時事務局までお問い合わせいただけますようお願い申し上げます。

以上

## 立命電友会 個人情報保護基本方針

立命電友会（以下「本会」と称す）は、「個人情報の保護に関する法律」の立法主旨を尊重し、より安全に会員相互の親睦と社会的ネットワークの構築（会則第5条（目的））をはかるため、次の基本方針を定めて、本会が保有する個人情報の保護と適切な取扱いに努め、これを維持する。

### 1. 個人情報に対する姿勢

本会は、本会が保有する会員の個人情報（以下「個人情報」と称す）が会員個人の人格の尊重ならびに本会の社会的責務に関わる重要な守秘対象であることを認識し、その保護に努める。また、本会会員に対して本姿勢を周知させ、その主旨が理解されるように務め、本会と相互にその認識を共有する。

### 2. 個人情報の利用目的

本会は、本会会則第5条（目的）に基づく活動を遂行するため、個人情報を利用する。

### 3. 個人情報の取得

本会は、個人情報の利用目的を予め会員に示し、その目的達成に必要な最小限度の範囲で、適法かつ公平に個人情報を取得する。

### 4. 個人情報の取扱い

- 1) 本会は、個人情報の利用目的に則した業務の遂行の際は、守秘要件を確認しつつ、慎重に個人情報の取扱いを行う。
- 2) 本会は、個人情報の取扱担当者を特定し、守秘義務を課した上で、利用目的の範囲で、個人情報の取扱いを認める。
- 3) 本会は、個人情報の取扱場所および機材を限定して作業を行う。

### 5. 個人情報の提供

- 1) 本会は、会員および財団法人日本情報処理開発協会認定のプライバシーマークの使用許諾を受けた業者（以下「業者」と称す）以外への個人情報の提供は行わない。但し、法令に基づく場合や本人の同意を得た場合は、その限りでない。
- 2) 会員および業者への個人情報の提供は、本会の活動を遂行する利用目的に則し、必要な最小限度の範囲で、適法かつ公平に行う。
- 3) 本会は、個人情報を提供する場合には、本基本方針に基づく守秘義務の遵守を誓約させる。

### 6. 個人情報の管理

本会は、個人情報の正確性と最新性を保ち、また、その不正利用、外部流出、滅失、棄損等を防止するために適切な対策を講じる。

### 7. 個人情報の開示、訂正および利用停止等

本会は、会員から自己の個人情報の開示、訂正および利用停止等の申し出があったときには、それを尊重し、慎重かつ適切に対応する。

### 8. 個人情報保護のための体制

本会は、個人情報取扱責任者を設置し、個人情報の管理と取扱いに努める。また、本会は立命電友会役員会のもとに個人情報保護運営委員会を設け、適切な個人情報の管理等を行うため、次の事項を行う。

- 1) 個人情報および個人情報データベース等の管理・運用方法の検討と取決め
- 2) 個人情報の開示、訂正および利用停止等の検討と取決め
- 3) 個人情報の管理、取扱い業務の監督・改善案の策定
- 4) 個人情報の管理、取扱いに関する苦情等の処理の検討と対応
- 5) その他、個人情報保護に必要な事項の検討と取決め

以 上

2006年5月13日

立命電友会 会長 荒 木 敏

九州・沖縄支部の  
総会・懇親会開催

支部長 森下 明憲

(昭和四十四年卒)

六月十日(土)に、平成十八年度の立命電友会九州・沖縄支部の総会・懇親会を、九州国立博物館で開催しました。

九州国立博物館は、二〇〇五年十月に開館、学問の神様で有名な菅原道真公を奉った大宰府天満宮に隣接して建設されており、東京、京都、奈良に次ぐ日本で四番目の国立博物館です。当建物は主要構造部S造、地下二階、地上五階延べ床面積約三万㎡で、博物館機能部は免震構造となっています。電気設備は普通高圧一回線受電、受電容量六〇〇KVA、自家発電設備一・二五〇KVA一基、蓄電池設備四〇〇AH、太陽光発電設備四〇KWなど、最新、最先端の設備を装備しています。

第六回目を迎えた今回の総会・懇親会には、休日にもかかわらず遠方より立命電友会の荒木徹会長、大学からは高山茂、山田光の両先生に参加していただきました。当日は晴天に恵まれ、大宰府天満宮では菖蒲が満開、菖蒲コンサートも開かれており多くの参拝客で賑わっていました。



最初に琉球王国の栄華と歴史に触れる特別展示「うるま ちゅら島 琉球」と常設展示を見学、その後場所を博物館敷地内のレストランに移して懇親会を開催しました。最初に荒木会長に挨拶を頂いたあと、高山先生からは学園の近況などの報告、参加者の皆さんの生活ぶりを語らいながら、在学中の学園生活の話、最近の話題であるエレベータ、エスカレータの話、マンションの耐震偽装の話など話題に事欠かない半日でした。

話も尽きない中またたく間に時間が過ぎ、来年も六月の第二土曜日に開催することを決めるとともに、再会を約束しつつ閉会、三々五々会場を後にしました。

なお本年の参加者は、荒木電友会会長、高山、山田の両先生のほか、福岡院(三十三年卒)山下恭之(三十四年)、服部征記(三十七年)後藤浩文(三十八年)鮎川

清明(四十年)村上富男(四十年)前田隆(四十年)西山興男(四十二年)杉本幸生(五十六年)の皆様と森下(四十四年)の十三名でしました。来年はより多くの皆様に参加していただけることを祈念しつつ本年の報告とさせていただきます。



「関東立電会」開催

米澤 正勝

(昭和三十六年卒)

六月三十日(金)午後六時三十分から、東京都品川の日立・和豊館で関東地区在住の電気卒OB会「関東立電会」が四年振りに開催されました。

講演者は元・オムロン田中事業部長(昭三十五卒)、立命電友会から荒木会長(昭三十四卒)、役員杉本さん(昭五十六卒)、学園からは電気電子工学科・高山教授(昭五十九卒)にご出席頂き参



加者は総勢二十二名でした。

第一部はNHKテレビ「プロジェクトX挑戦者たち」通勤ラッシュを退治せよ」世界初自動改札機誕生」に出演されたシステム開発責任者の元・オムロン田中氏にご講演をして頂きました。

\* 成功の鍵は乗降客の視点に立つた開発理念

\* 不断の努力と忍耐、幅広い好奇心

\* 失敗体験を無駄にしない等、開発の貴重な体験談は参加者にとつて大いに参考となりました。

第二部は、総会で松田会長(昭三十二卒)、池田代表幹事(昭三十三卒)の挨拶に引き続き、高山教授から、立命館小学校の開校、本部二条キャンパスの開設計画等、一九一三年の電気工学講習所開設



以来、この九十三年間で電気科・卒業生が一万一千名となる等、学園や学科の近況をご報告頂きました。学園関係者のご尽力で母校が遅くも発展して行く事に誇りを覚えると共に嬉しく思いました。

第三部は懇親会で美味しい中華料理を頂きながら久しぶりの再会に話が弾みました。会場終了時間の午後九時に校歌を全員で斉唱し散会となりました。出席者からは今後、毎年の開催要望がありました。若い仲間の協力を頂きながら、又楽しい会として多数の仲間が参加して頂ける様に検討を重ね、毎年継続して開催して行ける様に、今後努力して行きたいと思っております。

終わりに、本会を開催するに当たり案内状、出席者名簿、名札等の作成に御尽力頂きました電友会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

同窓会だより

立命館大学専門部
理工学部電気工学科
昭和十七年四月入学
同期会 (衣笠山麓会)

去る平成十八年四月三日京都河
原町荒神口東入「くに荘」にて開
会致しました。

昨年五月一部会員よりの同期会
の開会の要望があり早速に会員名
簿の整理を兼ねて、旧名簿(平成
九年同期会)に基づき近況報告と
同期会開会の意見答申を要望致し
ましたところ

御遺族の死亡報告書三名
(堀江、家田、岡田「善」)
病氣療養中八名
(岩崎、岡田「猛」、竹下、神塚、
根市、早田、法雲、長川)

欠席二名(岸、小堀)
出席及同伴 会員六名、同伴二名
(市丸夫妻(佐賀)、大西(徳島)、
山本(大阪)、三輪(名古屋)、
加瀬(東京)、得田夫妻(京都))

四月三日
午後三時三十分 集合
午後六時 開宴
午後八時三十分 閉宴、宿泊

四月四日
午前九時三十分 円山公園櫻見物
午前十一時 解散
貴様と俺とが居る限りたとえ二
人になろうとも毎年続けようと再
会を誓って名残を惜しみ解散しま
した。

世話人 得田 益男



『昭和四十二年卒
同期同窓会』

我々昭和四十二年卒業生は去る
四月八日(土)「還暦・定年を迎
えて」のタイトルのもとに卒後四
十周年記念同窓会を京都タワーホ
テル九階「飛雲」の間にて、辻村
先生、菊屋先生、前田先生、浦
山先生の御臨席を賜り同伴者も含
め総勢四十六名で賑やかに開催す
ることが出来ました。集合写真撮
影、開催の挨拶後「立命館校歌」
を全員で唱和し歓談に入りました。

学生時代の写真のスライドを観賞
し教室で電気工学を学び実験した
りしたこと、卒業研究風景など、
しばし時を忘れ学生時代に戻り四
十年前の姿を彷彿させ想いを馳せ
ました。その後各先生方からご挨拶
を賜り、人生に対する貴重なお
言葉を頂き、我々は還暦を迎えて
も人生まだまだ修養が足りないとい
実感した次第です。

ビンゴゲーム等をして楽しんだ
あと、恩師の四先生の方々卒業
生代表が先生方の健康と御長寿を
祈り、大学時代に学問の道を教授
戴いたお礼感謝の意味を込めて花
束を贈呈させて頂きました。

ところで卒後四十年ともなると
すとい既に他界した者もおりまして
再会が適わぬ事で残念でなりませ
ん。御冥福を祈り申し上げます。

また仲良く多感な学生時代を過
ごした者同士でも四十年を経過し
ますと一人一人の人生航路に大き
な開きが出てくるのは避けられな
い事で再会するにあたって微妙な
心理の揺れもあり諸事情により欠
席された方もおられるようです。

楽しく青春、学生時代を過ごし
た者が共に遊び学んだ日々を回顧
し懐かしみ先生友人達としばしのお話
をして当時を思い起こし、し
のんで頂ければ嬉しく思う次第で
す。

今回欠席された方、色々なわだ
かまりを捨てて次回のご参加を期
待しております。我々は身を立
て名を残すような立派な事は出来な
かったかもしれませんが、色々な
想いを秘めながら素敵な六十代を
目指し過ごし再会を待ちたいと思
います。

(記 代表幹事 南 能寿)
追記 卒後四十周年記念の小冊子を只今
作成中です。完成まで暫くお待ち
下さい。



辻村・前田・浦山研究室
合同同窓会のお知らせ

前回の同窓会(〇四年十二月、
四十数名参加)より一年有余、今
年の同窓会は本来ですと六月開催
予定でしたが、諸般の事情により
十二月二日(土)に行うことにな
りました。

会場は木屋町の鴨川のほとり
「岡たみ旅館」、二次会も十分楽し
める場所柄でもありますので、多
数のご来場をお待ちしています。
(宿泊も可)

先生方も次回同窓会を心待ちに
しているようです。何かと多忙な
十二月かと思いますが、詳細が決
まり次第改めて案内状を送らせて
まいりますので、よろしくお願
いします。

合同同窓会幹事会
藤井 力広

計報

Table with columns: 卒年, 氏名, 平成 year. Lists members and their graduation years.

事務局便り

立命電友会会報第二十八号の発
行にあたり、ご寄稿いただきまし
た皆様には、心より御礼申し上げ
ます。今年皆様のご協力により、
九州・沖縄支部、関東立電会と両
方開催することができ有難うござ
いました。立命電友会では原稿を
募集しています。自分の書いたも
のを会報で残してみませんか。学
生時代の思い出や写真なども一緒
にいかがでしょうか。お待ちしております。住所変更のご連絡も宜しくお願
いします。

立命電友会連絡先
〒五二五-八五七七
滋賀県草津市野路東一-一
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局 川畑 良尚
宮林(月・木)
電話 〇七七(五六)二六六二
FAX 〇七七(五六)二六六三
E-mail: denyukai@ml.ritsumei.ac.jp
http://www.ritsumei.ac.jp/se/re/denyukai/
(会報の題字は久保之俊氏)